

聖籠町 幼児教育推進体制を活用した 地域の幼児教育の質向上強化事業

令和5年度の活動



令和6年2月20日(火)
聖籠町幼児教育センター

令和4年度から新しい子育てシステムへ移行

聖籠町では、平成17年度から令和3年度まで、0歳から2歳児を私立保育園で、3歳児から5歳児を町立幼稚園で教育するシステムをとってきた。

しかし、近年の社会状況の変化並びに国の幼保無償化政策等により、保護者の保育園、幼稚園に対するニーズが大きく変化し、令和4年度から新しい子育てシステムに移行した。

◎ 0～2歳児を受け入れていた私立保育園【4園】



0～5歳児までを受け入れる
私立認定こども園4園へ

◎ 3～5歳児を受け入れていた町立幼稚園【3園】



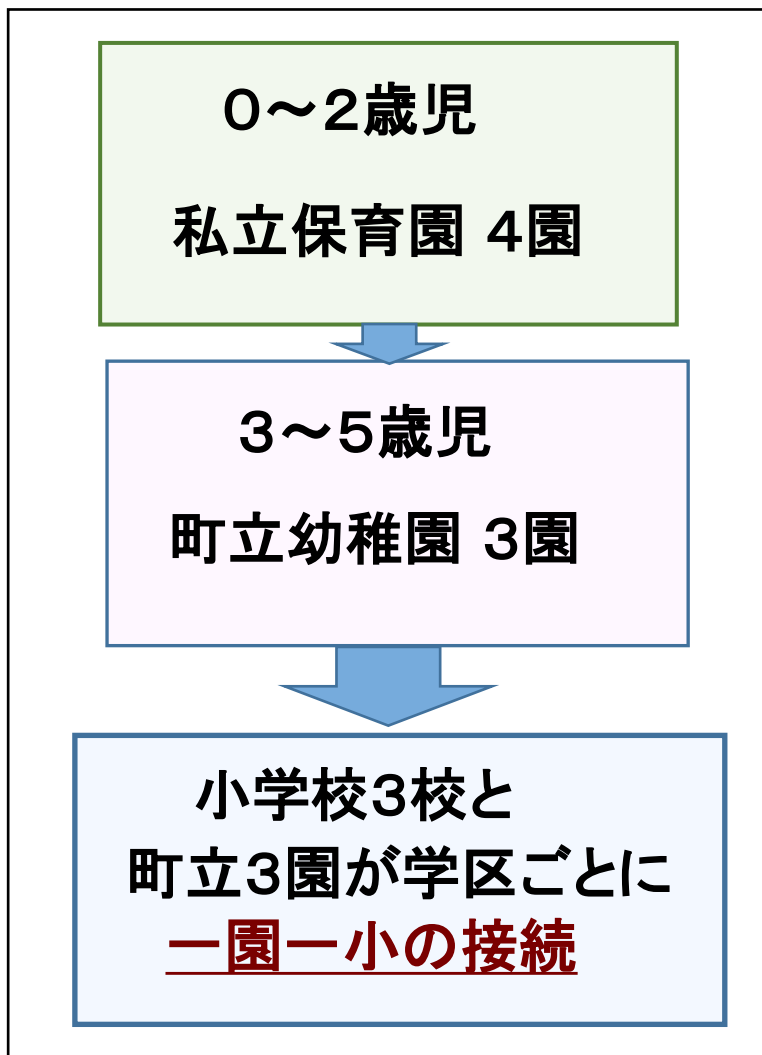
閉園し、新たに町立幼稚園
1園が開園

※町教諭の一部は、私立認定こども園に幼児部の教育を担うために派遣配置。

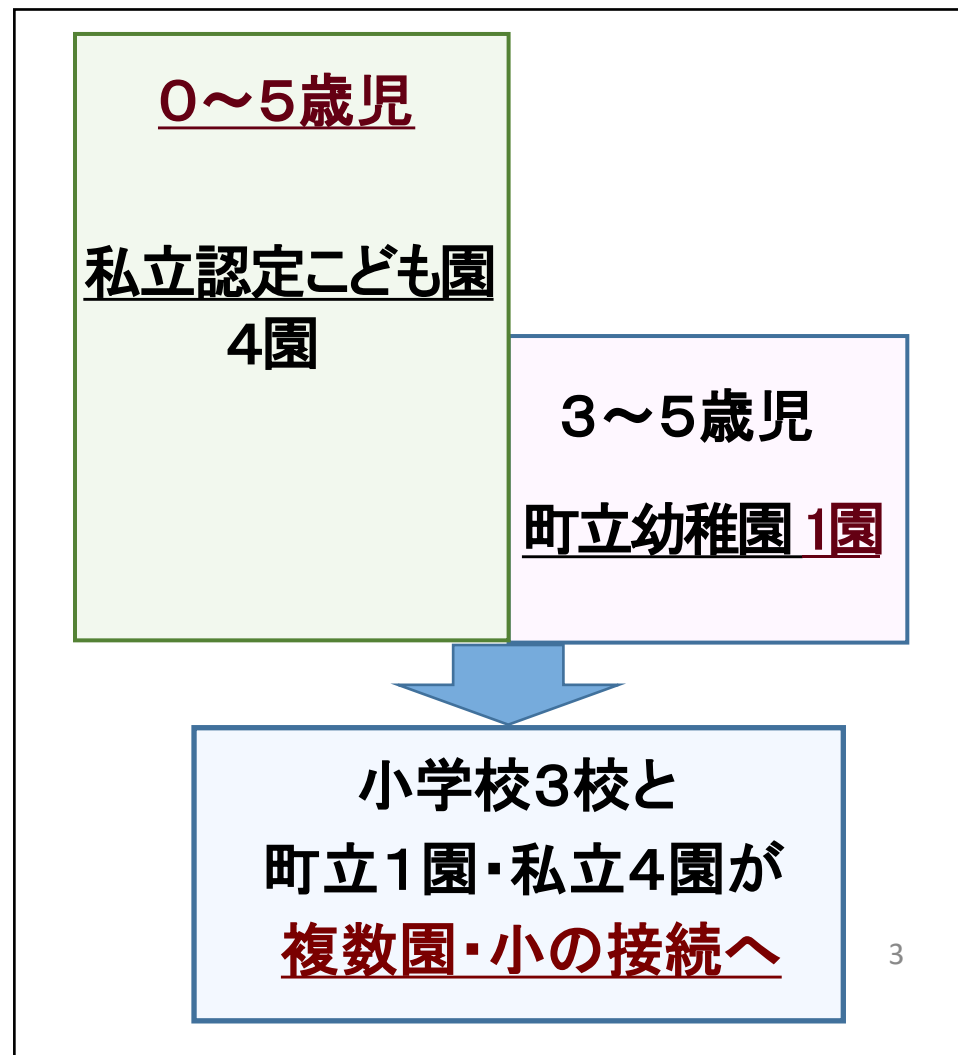
令和4年度から新しい子育てシステムへ移行

園の体制だけではなく、幼保小の接続体制も大きく変化した。

令和3年度まで



令和4年度から



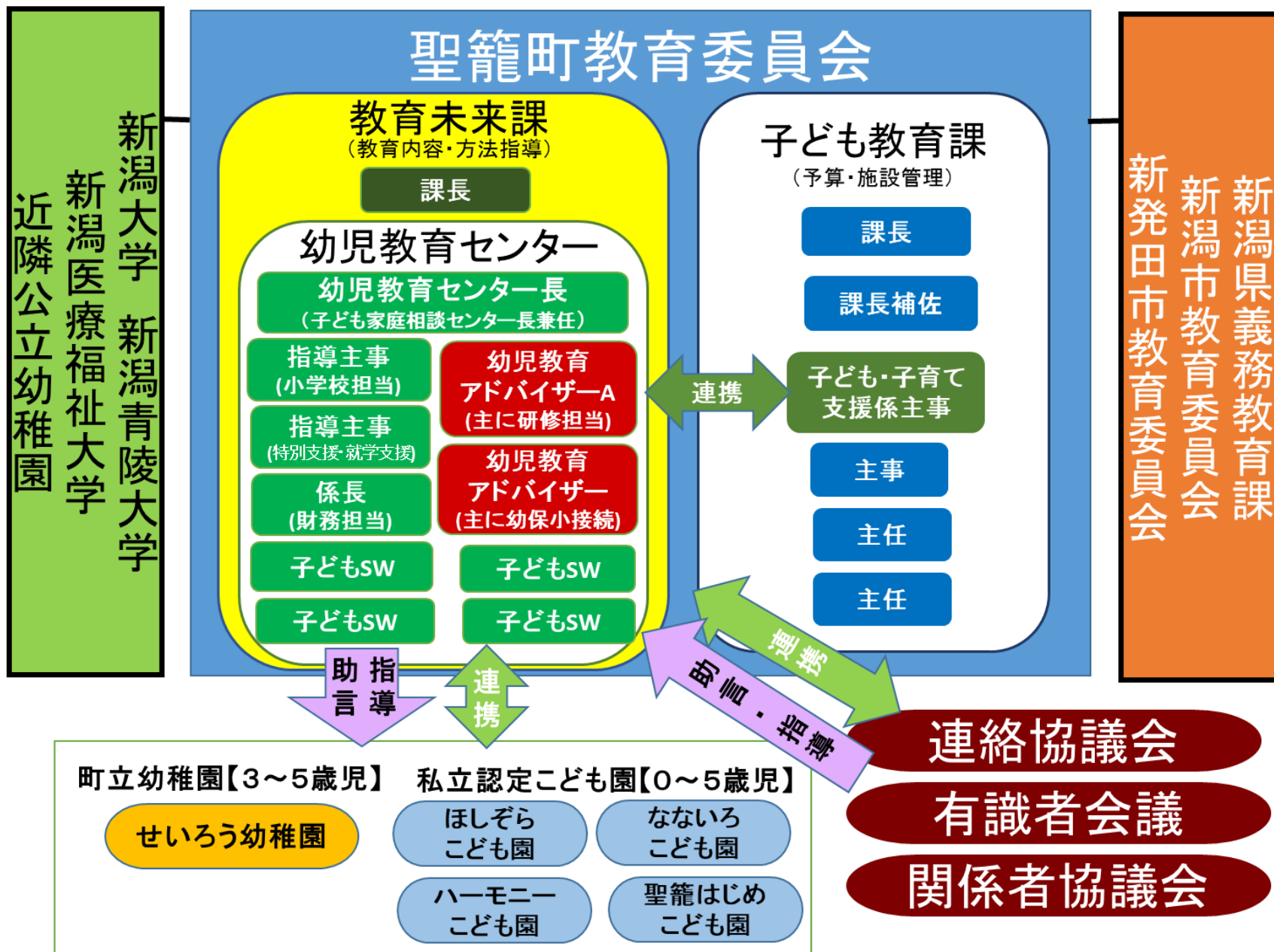
聖籠町幼児教育センターによる幼児教育の推進

新しい園体制での幼児教育の充実と新たな幼保小の接続に向けて、令和2年度から文科省の「幼児教育体制の充実・活用強化事業」に取り組み、教育委員会内に**幼児教育センターを立ち上げ、幼児教育アドバイザーを配置**し、幼児教育の質の向上と幼保小の円滑な接続を推進してきた。



- 幼児教育アドバイザーに、元園長と元小学校教員を充て、園での訪問指導と幼保小の円滑な接続に力を入れている。
- 家庭状況・生育状況を踏まえた取組を展開するために、町の子ども家庭相談センターのソーシャルワーカー4名も幼児教育センターに位置付け、連携して活動している。

聖籠町 幼児教育センターの仕組み



幼児教育アドバイザーの取組

1. 幼児教育の質と指導力の向上

2. 園・小の円滑な接続・連携

3. 幼児教育資料の作成と活用

4. 町の幼児教育の積極的な発信

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上

1. 幼児教育の質と指導力の向上

(1) 園の定期訪問研修

(2) 園合同研修会の開催

(3) 園訪問を活かした合同研修

1.(1)園の定期訪問研修



◎幼児教育アドバイザーが保育を参観し、園教諭へ保育指導を行う。
また、園長や園教諭からの相談対応を行う。

- ・町立幼稚園 (3～5歳児) 【1園】
- ・私立認定こども園 (0～5歳児) 【4園】

5園を毎月2回ずつ訪問指導 (月10回訪問)

1.(1) 園の定期訪問研修

目的

- 各園を訪問し、町の幼児教育の指導力向上を図る。
- 「主体性を育む保育」について、職員の意識の定着を図る。
- 園小連携の充実を図る。

方針

- 各園の指導方針は大事にし、自由保育や一斉保育の部分で「主体性を育む保育」を意識できるように助言。
- 0～5歳児の子どもたちの発達の確認や環境構成、保育者の援助の在り方を意識できるように指導。

1.(1) 園の定期訪問研修

方法

①アドバイザーが、午前中、0～5歳児の保育の様子をタブレットで動画撮影。

②動画を確認しながら保育者への指導内容を決め、訪問記録を作成。

③園の午睡や夕方の時間に再訪し、園長や担任と動画をもとに1時間程話し合いを行う。

※ 忙しい現状を踏まえ、指導は1時間程度。



映像を見て自分の保育を振り返る。



話し合いの時間が取れない園には、指導のポイントを紙面にまとめて渡し、意識を高める

幼児教育アドバイザー・地主 浩美

2 歳児

保育者が、ジョウロで「エイ！」と水を撒く姿を見せる。近くの子2人が真似して水をまきだす。



虫を捕まえようと頑張るが手では捕まえられない。足を使ったり、砂をかけたりするがそれでも駄目。最後には保育者を連れてきて自分の要求を満たそうとする。

保育者が山にトンネルを掘る。子どもたちは興味津々、「手入れて握手」という声に穴に手を入れお互いの手が触れることを喜ぶ。



保育者が遊びの楽しさを伝える役をすることで真似が始まり、結果子どもたちの遊びが広がっていくように感じた。水車は遊び方がわからないのか持っている子がほとんど、保育者がやり方を見せてあげるとその楽しさがわかるのかもしれないと思った。

1 歳児



水遊びの環境・・・バケツ、スコップ、手作り魚
水と、魚を自分のバケツに入れて楽しむ姿があった。魚も子どもの手ですくやすい大きさ

1 歳児でも、「すくえた」と自分の目で見てできたことがわかる環境がとても大事だと感じた。手作り魚とスコップは、そこまで考えた環境となっていた。車漕ぎも同様、「やれた、出来た」につかかず褒めていく保育者の姿勢が子どものもっとやろうとする気持ちにつながっていくと感じた。

広場環境・・・少し困難な山やトンネル、一人乗り車
子どもの興味をそそる遊具があった。
車漕ぎは、片足ずつの子と両足ずつこぐこと二通り。自分のやりたいことが中心で、友達に譲るということはなかなか難しい。



0 歳児

ビニール袋に色水を入れて触れるようにしている。また、月齢により2チームに分かれて遊びが常に進められている。



年齢が低い子にも感触を味わわせる配慮をしていた。ただ、遊ばせているのではなく、保育者が準備しなければ味わえないような環境を準備する大切さを感じた。年齢が低いので特に感触関係

全体

3～5 歳がいない環境を利用し出かける。
同じ学年でも場を別にして遊ぶ配慮。

年齢の低い子の環境として、保育者が見える環境、邪魔されず自分のやりたいことができる環境が大切。そのため、大きい子の遊んでいる場よりも安心して動ける空間を大事にしたほうがいい。あえて一緒にしない環境は、一人一人がやりたいことを安心してでき、とても良いと感じた。

園長や担任の悩みや要望に対して、具体的な指導を行う



実際の質問より



日常生活の中で、主体性を育むにはどのような環境構成が大切ですか。

保育室の中に、子どもが自由に使える教材や遊具を置いてみましょう！

4歳児で、自己選択ができない子にはどうしたらいいですか。

「これとこれ、どっちがいい？」と二者択一の場面を意識してつくってみましょう！

アドバイザーがこれまでの経験をもとに資料を作成して指導

実際の例



2歳児から
3歳児にかけて、
大事にしなければ
ならないことを教
えてください。

未満児で大事にすること

幼児教育アドバイザー・地主浩美

○0歳児～2歳児・・・

- ・本来ならば保護者のもとでゆったりとそのこのペースで生活できれば子どもにとってはいい環境。ただ、今の時代は核家族が多くなったことや保護者の就労の都合で集団生活を送っている。
- ・3～5歳児の発達の違いから、3～6人に対して一人の保護者が担当することとなっている。

○大事にするべきことは

① 一人一人の自立・基本的な生活習慣の自立

特に、トイレの自立や衣類の着脱に対して、保護者が忙しくて目が向けられていない。時々、意識させ啓発していくことも保育者の役割。
また、自分のことがある程度できると大きい集団でも不安が小さくなる。

② 愛着行動

家庭では保護者がその対象となるが、園では、各担当がその役割をしなければならない。

園で、一番大好きな存在になっているのか？

ここがあると、大きな集団に行っても大人を頼る、好きになる土台となる。

- 目を見てひとりひとりとちゃんと相手していますか？
- 出来た時にちゃんと目を見て褒めていますか？
- 担当の子に泣かれても毎日、かわいいと思えますか？
- 子どもの抱っこやおんぶの要求にこたえていますか？

③ 自分で選ばせる場面

指示命令だけの保育では、動けない子意欲のない子になってしまう。園生活の中で、選ぶという場面を作る。(小さい子の主体性へ)

<例>ボールを選ぶとき・・・「赤と青どっちがいい？」等

1.(2) 園合同研修会の開催

<p>園長・副園長・ミドル リーダー研修会 講師：県立大学非常勤講師 令和5年6月</p>	<p>○「今求められている園運営と人材育成」</p>
<p>4歳児保育研修会 講師：新潟大学教授 令和5年7月</p>	<p>○「主体性を育む援助と環境構成」 幼児教育アドバイザーが園訪問で撮影した動画をもとにした研修会</p>
<p>3歳児保育研修会 講師：新潟大学教授 令和5年8月</p>	<p>○「安心感をもち自ら動き出す援助と環境構成」 幼児教育アドバイザーが園訪問で撮影した動画をもとにした研修会</p>
<p>指導力向上研修会 講師：新潟大学教授 令和5年8月</p>	<p>○「主体性を育む保育の大切さ」</p>

「園長・副園長・ミドルリーダー研修」の実際

講話 『今求められている園運営と人材育成』

※研修会1か月前の園長会で、事前に「園運営と人材育成」に関する悩みや聞きたいことを出し合ってもらった。

それをもとに、講師が講話を組み立て

豊富な経験から、管理職の困り感に対する具体的なご指導をいただき、明日からの園運営にすぐ活かせるものとなった。



「園長・副園長・ミドルリーダー研修」の実際

講話内容

- 1, 保育・幼児教育の動向と課題
- 2, これからの園に求められる役割
- 3, 園マネジメントの意識改革
- 4, 質の高い保育を実現するために

一人一人の職員の個性・多様性を活かし、働くことの魅力とやりがい、力を発揮できる組織づくり、職場環境をつくり出しましょう！

風通しの良い、語り合う風土をつくりましょう！



「園長・副園長・ミドルリーダー研修」の実際

参加者の振り返りより



担任が子どもたちの育ちをみるように、園長も職員の育ちを見て、

「指導よりも支援」

「相手に気付かせる」

「批判する前に探る」

「話せる雰囲気をつくる」

ことを意識し、実践したい。

(園長)

職員一人一人の良さを認め、活かしながら、自信とやりがいをもって仕事ができるように育てていきたい。

保育者自身の主体性を高め、子どもたちのために責任をもって仕事ができるよう、マネジメント能力を高めていきたい。

(園長)

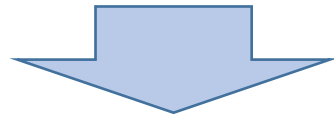
よりよい園運営への思いを新たにし、その後の指導に活かしていた。

1.(3) 園訪問を活かした合同研修会

『4歳児保育研修会』『3歳児保育研修会』は、アドバイザーが園訪問で撮影した保育動画を活用して実施

① 保育動画の選定

アドバイザーが5園の訪問で撮影した保育動画から、**子どもたちが楽しんでいる場面**を選び、指導者の**大学教授**から**確認**してもらいながら研修会で取り上げる場面を決定。





② **各動画の「見るポイント」を作成**

アドバイザーが動画を編集し、5園の動画の「見るポイント」と「協議の視点」を作成。



③ **各園へ事前配布**

自分の考えをしっかりとって参加するために、各園に事前に、動画と「見るポイント」「協議の視点」を配付。



④ **「4歳児保育研修会」「3歳児保育研修会」開催**

各園の4歳児担任、3歳児担任が集まり、動画をもとに協議し、大学教授よりご指導。

「3歳児保育研修会」の実際

「見るポイント」(1園抜粋)



A 園「先生とかけっこ」

初めは、木と木の間を担当の「よーいどん」の合図で一緒に走るのが楽しかった子どもたち。

何度かやるうちに、木の後ろに隠れることを思い付き担当の出方を待つ姿に変化していきます。

この姿をどうとらえ反応したらいいのでしょうか？

※「見るポイント」を示すことで、保育の見方が明確になり、自分なりの考えをもって研修会に参加することができる



「3歳児保育研修会」の実際

「協議の視点」

- 子ども達は何を楽しんでいたか？
- 安心感を持ち自ら動き出すには、保育者のどんな援助や環境が大事か？
- 私ならこんな対応をするという気付きがあったか？



アドバイザーが「見るポイント」を説明しながら動画を視聴



5園それぞれの保育のよさをグループで活発に意見交換



意見を発表し合い学びを共有

「3歳児保育研修会」の実際

大学教授によるご指導



- ・自ら動き出すとは
身体が動く
心が動く(関心・意欲・気付く)
- ・安全基地
認められ、受け入れられる安心
から、遊びが続く・広がる

グループ協議より

3歳児は

- ・先生に認めてもらうことが
遊びを繰り返す力になる。
- ・先生と一緒に楽しんだことが
自分で動き出す力になる。

参加者の振り返りより

- ・ 動画を通して、他園の環境
構成の工夫や遊びの様子
を知ることができ、とても良
かった。

1. 幼児教育の質と指導力の向上 【成果と今後の方向】

成果

- 園訪問を、各園が当たり前のことと捉えてくれるようになり、「具体的な指導や保育の悩みにアドバイスをしてもらえる」「翌日の保育に活用できて嬉しい」などの声が聞かれる。
- 合同研修会では、「他園での取組を知ることができ、学びが多かった」という声も多く、各自の保育の改善につながっている。

今後の方向

- 『主体性を育む保育』への理解
 - ・園長への積極的な働き掛け。
 - ・子どもが何を楽しんでいるか見取る力を動画を通じて学ぶ。
- 体制づくり
 - ・各園で研修会ができるような体制づくり
 - ・町立・私立園の同学年担任による情報交換

2. 園・小の円滑な接続と連携

- (1) 「関係者協議会・園長会」の開催
- (2) 町内全小学校教諭へ幼児教育の伝達講習
- (3) 「園・小合同研修会」
- (4) 「架け橋メッセージ」の作成

2.(1)「関係者協議会・園長会」の開催

関係者協議会【小学校長、町立・私立園長】 年2回開催
(9月・R6 3月)

- 園・小の円滑な接続・連携方法の構築
- 架け橋プログラム、架け橋期カリキュラム、架け橋メッセージ等の検討

園長会【町立・私立園長】 年3回開催(5月・8月・12月)

- 園運営・活動内容について情報交換
- 幼児教育リーフレット改訂版、架け橋メッセージ、架け橋期カリキュラム等の検討

園・小が連携して架け橋期の接続を検討する

日程	会議	議題
5月11日	園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の幼児教育推進について ・よりよい園運営と人材育成
8月31日	園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・架け橋メッセージの導入 ・2学期からの園訪問研修
9月 5日	関係者協議会 (園長・小学校長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の幼児教育推進について ・架け橋プログラム,架け橋期カリキュラム, 架け橋メッセージ等の共通理解と検討
11月20日	園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育リーフレット改訂版検討 ・聖籠町架け橋期カリキュラム(案)検討
R6 3月4日	関係者協議会 (園長・小学校長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果と課題, 来年の活動予定 ・聖籠町架け橋期カリキュラム(案)検討

2.(2)町内全小学校教諭へ幼児教育の伝達講習

5歳児の学びと育ちを、入学式前に小学校の全教諭に伝達講習

理由

- 園での学びや育ちは、研修や保育参観をしないと理解しにくい。
- 保育参観やスタートカリキュラム作成を行った教諭と、新一年担任が違う場合が多く、園での学びや育ちが入学時うまく伝達されない。



令和5年4月3日 「町教職員全員研修」

「幼児教育と5歳児後期の学び・育ち」について、

町立幼稚園長から町内全小学校教諭へ伝達講習を行った。

小学校全体で、園での育ちを理解して新一年生を迎えた。

2.(3) 園・小合同研修会の開催

園教諭による 新一年生の授業参観

令和5年4月

○園教諭がスタートカリキュラムの様子を参観し、幼保小接続の在り方を学ぶ。

園・小学校教諭による 5歳児研究保育協議会

指導者：新潟大学教授

令和5年6月

○町立幼稚園の保育をもとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点に、園での学びと小学校へのつながりを協議。

小学校教諭による 5歳児の保育参観

令和6年1月

○自校に入学する園児のいる全ての園で5歳児の学びや育ちを参観し、スタートカリキュラムに活かす。

園教諭による「新一年生の授業参観」の実際

○印は、小学校が園での育ちを引き継ぎ、授業で力を入れているところ

	幼稚園（3歳児～5歳児）	小学校1年生（4～5歳）
生活する力	<p>「おはよう」「いただきます」など挨拶が得意です。</p> <p>自分から進んで挨拶が得意です。</p> <p>いろいろな運動遊びで身体を動かします。</p> <p>生活のなかでいろいろな遊びを体験して行きます。</p> <p>園を最後まで見守ります。</p>	<p>小学校生活の準備ができています。</p> <p>自分のことは自分ででき、まわりを思いやりを持って生活します。</p> <p>自立心</p> <p>運動心と体力</p> <p>授業の準備ができています。</p> <p>授業の準備ができています。</p> <p>自分の名前を覚えて読みます。</p> <p>みんなと力を合わせて楽しく遊べます。</p>
かかわる力	<p>みんなと力を合わせて楽しく遊べます。</p> <p>友達で遊んだり、お話を聞いたりします。</p> <p>自分たちの方で解決して仲よく遊びます。</p> <p>たくさんのお話を聞いて楽しんでいます。</p> <p>みんなと力を合わせて遊べます。</p>	<p>自分の名前を覚えて読みます。</p> <p>みんなと力を合わせて楽しく遊べます。</p> <p>友達で遊んだり、お話を聞いたりします。</p> <p>自分たちの方で解決して仲よく遊びます。</p> <p>たくさんのお話を聞いて楽しんでいます。</p> <p>みんなと力を合わせて遊べます。</p>
学ぶ力	<p>興味や関心をもったことに自分から取り組みます。</p> <p>遊びを通していろいろなことを学びます。</p> <p>いろいろな遊びを通していろいろなことを学びます。</p> <p>心を動かす体験をし、言葉や絵、動きを通して思いを表現します。</p>	<p>自分の名前を覚えて読みます。</p> <p>みんなと力を合わせて楽しく遊べます。</p> <p>友達で遊んだり、お話を聞いたりします。</p> <p>自分たちの方で解決して仲よく遊びます。</p> <p>たくさんのお話を聞いて楽しんでいます。</p> <p>みんなと力を合わせて遊べます。</p>

園・小で目指す姿を共有した授業参観

各一年担任が幼児教育リーフレットをもとに「授業参観シート」を事前に作成。

「園での育ちを引き継ぎ、授業で力を入れているところ」に○を付け、園教諭に配付。

参観者の振り返り

園名・お名前

○印で培った力が、授業のどこで活かされていたか学んだことを書いてください。



園教諭は参観後

「園での育ちが、授業のどこで活かされていたか」を記入し、小学校へ送付。

園教諭による「新一年生の授業参観」の実際



授業参観シートをもとにした園教諭の振り返り(一部抜粋)

話を最後まで聞きます



【話を最後まで聞く】

園では、活動の説明や集会など保育者が前に立って話している時は、しゃべらずに最後まで聞いてから質問をするようにしていた。

授業の場でも先生の話をしっかり聞いている姿を見ることができ、園・小連携の大切さを学んだ。

言葉で思いや考えを
伝え合います



【言葉で思いや考えを 伝え合う】

園では、繰り返し自分の思いや意見を言う場を意図的に設け、教師や友達から受け入れてもらい、嬉しい気持ちを繰り返し経験させた。

授業の場でも、自信をもって発表する姿につながっていた。

園と小学校で振り返りを共有し、指導に活かしている。

園・小教諭による「5歳児研究保育協議会」の実際

5歳児が生き生きと砂遊びをする様子を数日間撮影した動画を視聴し、町立・私立園教諭，小学校長，教務主任，1年担任，特別支援担任で話し合った。



砂遊びの動画内容

泥団子に興味を持ち、遊び始めた2人と一緒に教師も遊び、2人の思いを受け止めた。

その後、クラス全体に遊びを紹介したことで、興味を持つ子が増え、「固くしたい」「山の上から転がしてみよう」など2～3人の中で目的を共通にして遊んでいる。

園・小教諭による「5歳児研究保育協議会」の実際

協議題

- ① 遊びの中でどんな力が育とうとしているか。
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から
- ② この力を育むためにどんな援助や環境構成が大事か。
- ③ 育ちつつある力は小学校教育のどんな場面につながるか。



協議題に沿って付箋に書いて
話し合い



発表し合い協議内容を共有

グループでのファシリテーション

B ①育とうとしている力 ②教師の援助と環境構成 ③小学校とのつな



「10の姿」から見た育とうとしている力

援助と環境構成

小学校へのつながり

協議された「10の姿からみた5歳児の育ちと小学校とのつながり」

(一部抜粋)

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	①育とうとしている力(5歳児)	②教師の援助と環境構成	③小学校とのつながり
「思考力の芽生え」	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分で考えやってみる。</u> ・ <u>繰り返し工夫し試す。</u> ・ <u>やってみようという意欲。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの声を拾って広げる、質問する。 ・ 共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分で考え調べる。</u> ・ <u>仮定し、試す。</u> ・ <u>追究する意欲。</u>
「言葉による伝え合い」	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の思いを伝える力。</u> ・ <u>聞き取る力。</u> ・ <u>かかわる力。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの声を繰り返す。 ・ よく聞き表現させる。 ・ 考えを全体に共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>発言する力、発表。</u> ・ <u>聞く力。</u> ・ <u>伝える意欲。</u>
「協同性」	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>友達と一緒に活動。</u> ・ <u>協力して遊ぶ。</u> ・ <u>同じ話題をみんなです。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども同士をつなげる言葉掛け。 ・ 友達との協力を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>一緒に考え深める。</u> ・ <u>役割分担して活動。</u> ・ <u>話し合い学び合い。</u>
「豊かな感性と表現」	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>五感を生かし感じ取る力。</u> ・ <u>良さを認め合い、取り入れる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>良いところを見つけ、感動を全体に伝える。</u> ・ 子どもの声を拾う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>感動の共有</u> ・ <u>共感する力</u> ・ <u>ペア、グループワーク</u>

園で育った力が小学校で活きていることを共通理解

大学教授によるご指導



主体性を育む保育で大切なこと

- 子どもの心に思いを馳せる。**
 - ・子どもから出てきた問いか。
 - ・子どもがやりたいと思っていることか。
- 子どもを信じて待つ。**

接続で大切なこと

幼児期の学びや育ちを、園と小学校で共通理解する。

○つなげるものは
「資質・能力の育ち」

○つなげるために
**「資質・能力の育ち」を
伝える・知る**

参加者の振り返りより



保育をじっくり見ることができ、**自分の引き出しを増やす**ことができた。話し合うことで、**日々の保育を振り返る**ことができた。

今の保育が**小学校へどのようにつながって**いくかを知ることができる**良い機会**となった。

(園教諭)

園で育てたい力、園と小学校の接続、園教諭の役割について、理論と意図に裏打ちされた働きかけはどうあるべきかという視点をもつことができ、**子どもの見方が少しずつ変わっていく**。

このような研修を積み重ね、**低学年担任の経験が**少ない先生方にも参加してほしい。

(小学校 校長)

小学校教諭による「5歳児保育参観」の実際

○印は、5歳児の接続期で特に力を入れているところ

聖籠町 幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力		このリーフレットを、目に見えるところに置いてください
生活する力	<p>★ 基本的な生活態度を身に付け、自分なりに行動できるように育てたい</p> <p>幼稚園（3歳時～5歳時）</p> <p>準備・片づけ・整理整頓など自分でやります</p> <p>いろいろな運動遊びで毎日体を動かします</p> <p>自分の考えや気持ちを言葉で伝えたりします</p> <p>いろいろな遊びや活動で友達と協力して行動します</p> <p>自分の役割や責任をしっかりと果たします</p> <p>友達と協力して行動します</p>	<p>小学校1年生（4～5月）</p> <p>自分のことは自分でやり、ましまりを覚えています</p> <p>自立心</p> <p>健康な心と体</p> <p>適性・規範意識の身生え</p>
	<p>★ 自分や他人の気持ちや考えを大切に育てたい</p> <p>幼稚園（3歳時～5歳時）</p> <p>みんなと力を合わせてがんばります</p> <p>自分の考えや気持ちを言葉で伝えたりします</p> <p>自分の役割や責任をしっかりと果たします</p> <p>自分の考えや気持ちを言葉で伝えたりします</p> <p>自分の考えや気持ちを言葉で伝えたりします</p>	<p>小学校1年生（4～5月）</p> <p>みんなと力を合わせてがんばります</p> <p>言葉による伝え合い</p> <p>協調性</p> <p>社会生活との関わり</p>
	<p>★ 自己の興味・関心をもとに、自分なりに行動できるように育てたい</p> <p>幼稚園（3歳時～5歳時）</p> <p>自分の興味・関心をもとに、自分なりに行動できるように育てたい</p> <p>自分の興味・関心をもとに、自分なりに行動できるように育てたい</p> <p>自分の興味・関心をもとに、自分なりに行動できるように育てたい</p>	<p>小学校1年生（4～5月）</p> <p>自分の興味・関心をもとに、自分なりに行動できるように育てたい</p> <p>自分の興味・関心をもとに、自分なりに行動できるように育てたい</p> <p>自分の興味・関心をもとに、自分なりに行動できるように育てたい</p>

○5歳児の接続期の指導で大事にしていること

- ・意図的に相談する場面や空き時間を見つけクラスミーティングなどを通して、自分なりに考えた思いを伝えたり相手の思いを受け止めたりしながら活動を進めていけるようにしている。
- ・遊びや活動を通して意図的に友達と相談をする場面をつくり、自分の思いだけでなく友達の思いにも気づき、折り合いをつけながら遊びを楽しめるようにしている。
- ・出来ない事にも最後まで諦めないで挑戦したり自分の目標を達成したりする活動を取り入れている。
- ・生活に見通しを持ち、指示がなくても自ら気づき、場に合った行動ができるように、教師は端的で分かりやすい話し方を心がけ子ども達が自分なりに考え行動できるように支えている。

○今後の課題（まだ不十分なところ）

- ・自分の気持ちに折り合いをつける力。
- ・消極的なところ。（自分の考えをもたない、発言力）
- ・挑戦意欲な姿。

各5歳児担任がリーフレットをもとに「保育参観シート」を事前に作成。
「5歳児の接続期の指導で大事にしていること」
「今後の課題（まだ不十分なところ）」
 を記入し、小学校教諭に配付。

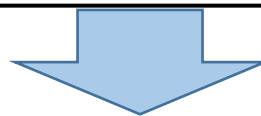


小学校教諭は、各園の5歳児の育ちを見取り、幼児教育の理解とスタートカリキュラムに活かした。

小学校教諭による「5歳児保育参観」の実際

○「5歳児保育参観」は、幼児教育センターで5園・3小学校の日程調整を行い、各小学校は自校に入学する園児がいるすべての園で参観を行った。

校長・教頭・教務主任・1年生担任・特別支援コーディネーター・養護教諭が参加



○「**合同情報交換会**」を開催（2月14日）
5歳児担任・副園長、教務主任・1年生担任・特別支援コーディネーターが参加

※幼児教育センターがタイムテーブルを作成し、各園と小学校で情報交換



2.(4)「聖籠町 架け橋メッセージ」の作成

願い

5歳児一人一人の伸びを、小学校にしっかりと引き継ぎ、さらに伸ばしてほしい。

園教諭の負担を増やさず、指導要録を活かして「5歳児一人一人の一番の伸び(小学校で引き続き伸ばしてほしいところ)」を分かりやすく伝える『**聖籠町 架け橋メッセージ**』の入カシステムを作成した。

- ① 指導要録の新しい『打ち込み一覧シート』をセンターで作成
園がこれまで使用していた個々のシートに入力するシステムから、一覧シートに入力すると、データが個々の指導要録に飛ぶシステムへ

② 5歳児の指導要録の「指導上参考になる事項」のセルを分割し、園の生活で一番伸びたところ(小学校で引き続き伸ばしてほしいところ)」を明記する欄をつくる。

「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」をもとに、伸びを分かりやすくまとめる。

※内容がつながる

「園の生活で一番伸びたところ(小学校でも引き続き伸ばしてほしいところ)」を明記

幼稚園幼児指導要録 (最終学年の指導に関する記録)

1	氏名	性別	生誕
	なかしま たかし		
氏名	中島 崇		
生誕	2019年11月日		
性別	男		
学年	5歳児		
担任			
指導			
指導内容	「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を園生活で最も伸ばしたところ(小学校でも引き続き伸ばしてほしいところ)を明記する欄をつくる。		
指導上の参考になる事項	「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を園生活で最も伸ばしたところ(小学校でも引き続き伸ばしてほしいところ)を明記する欄をつくる。		

③ 「園の生活で一番伸びたところ」のデータが、右側の一覧にも飛ぶ。

※伸びの一覧を新1年生のクラス名簿順に並び替えて、指導要録の写しの他に『架け橋メッセージ』として小学校に渡す。

個々の園児の
一番の伸び

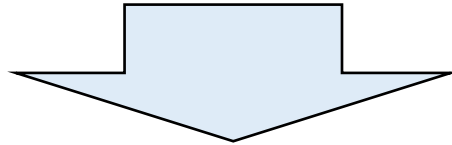
データが飛ぶ

『架け橋メッセージ』

番号	氏名	ふりがな	生年月日	性別	①個人の重点	②指導上参考となる事項	③児の一番の伸び	出席日数	出席日数	備考	①	②	③	名前	ふりがな	性別	児の園での一番の伸び	
1	中島 崇	なかじま たかし	2019年11月1日	男	自分が考えたことを自信をもって言ったり行動したりする。	一学期、年中児より仲のよい友達と一緒に園庭で鬼遊びやドッジボールを好んで行い、次第に体力が付き、運動的な遊びに自信をもつようになった。しかし、自分でやりたいことよりも仲の良い友達の見解に合わせて動くことも多かった。そこで、やりたいことを伝えるきっかけをつくったり、考えを取り上げ、認めたりするようにした。少しずつ自分の意見を友達に受け止めてもらえる機会が増え、三学期には、自分からやりたいことを伝えたり、友達とやりたい遊びが違うときは、別の友達も誘って遊んだりする姿が見られるようになった。	◎自分からやりたいことを伝えたり、友達を誘って遊んだり、自信をもって行動するようになってきた。	202	180	-----	28	246	47	1	中島 崇	なかじま たかし	男	◎自分からやりたいことを伝えたり、友達を誘って遊んだり、自信をもって行動するようになってきた。
2	安達 香	あだち かおり	2020年1月1日	女	学力向上を頑張ろう。	毎日笑顔で頑張っている。 :	新しい事業の推進を任されても、責任感をもって笑顔でやり遂げていた。	202	199	異別き3日	10	70	33	2	安達 香	あだち かおり	女	新しい事業の推進を任されても、責任感をもって笑顔でやり遂げていた。
3	須藤克敏	すどう かつとし	2023年6月30日	男	野菜をもっとたくさん食べよう。	日々優しく職員に接している。 :	忙しい時も、いつも笑顔で職員一人一人を見守り声を掛けていた。	202	190	休養日12日	15	72	30	3	須藤克敏	すどう かつとし	男	忙しい時も、いつも笑顔で職員一人一人を見守り声を掛けていた。
4	村木潤三	むらき じゅんぞう	2000年3月11日	男	熱中症予防をして歩こう。	職場の仲間が健康で笑顔でいられるようラジオ体操や楽しい話をしている。 :	みんなの生活が良くなるように強い意志を持って活動していた。	202	100	休養日102日	12	73	29	4	村木潤三	むらき じゅんぞう	男	みんなの生活が良くなるように強い意志を持って活動していた。

『架け橋メッセージ』は 園から小学校への愛情のバトン

- 5歳児担任は、一人一人の「一番伸びたところ(小学校でも引き続き伸ばしてほしいところ)」を明確にすることで、一番伝えたいことをクローズアップして小学校に伝えることができる。



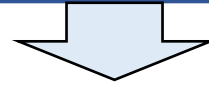
- 新一年生担任は、一人一人のがんばりや伸ばしたいところを把握しながら、プラスな面に視点を当てて学級づくりができる。

それが、子どもの自信や安心感、教師とのよりよい関係につながり、クラス全体の引き上げにもつながる。



『架け橋メッセージ』の活用

○ 5歳児担任が作成した「架け橋メッセージ」を、3月末に幼児教育センター長が各学校の各クラス名簿順に並び替えて小学校に届け、意義と新一年生担任による活用について改めて説明。



○ 4月1日の町教職員全員研修で、「幼保小架け橋プログラム」「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」「架け橋メッセージ」の意義と活用について全小学校教諭へ説明。



○ 1年生担任に、6月に「架け橋メッセージ」の成果についてアンケートを取り、9月の関係者協議会で改善点などについて検討する。

2. 園・小の円滑な接続と連携 【成果と今後の方向】

成果

- 「架け橋メッセージ」の導入などに、各園・小学校から理解と協力をいただき、園・小の円滑な接続が進んできた。
- 園・小合同研修会では、校長・教務主任・1年生担任・特別支援担当などが参加し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点に互いの教育のつながりについて理解を深めることができた。

今後の方向

- 園・小合同の研修や会議は、多くの教諭が関わるため日程調整が大事である。今後も、計画や日程調整を幼児教育センターが行っていく。

3. 幼児教育資料の作成と活用

- (1)「聖籠町幼児教育リーフレット改訂版」の作成
- (2)「聖籠町架け橋期カリキュラム」の作成

3.(1)「幼児教育リーフレット改訂版」の作成

架け橋プログラムの推進に向けて、令和3年度作成の「聖籠町幼児教育リーフレット」を改訂。改訂版を、令和6年4月に町内3～5歳児の全家庭と町内園全教諭、小学校に配付する。

旧 表面



旧 中面



改訂の視点

「園での遊びを通じた学び」と「スタートカリキュラム」に焦点をあてていたが、5歳児～1年生の架け橋期について、生活する力・かかわる力・学ぶ力の3つから園・小のつながりをまとめる。

「幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力」について、1年生はスタート期だけではなく一年間を通して育てたい力に変更。園は文言や挿絵を修正。

幼児教育から小学校教育へ 学びや育ちはつながっていきます

〈幼稚園教育要領・保育
所保育指針・幼児教育課程
設定にも幼児教育・保育
要領より〉

- 幼児期に育みたい資質・能力
- ★ 知識および技能の基礎
 - ★ 思考力・判断力・表現力等の基礎
 - ★ 学びに向かう力・人間性等

育ちや学びの連続

- 小学校で育みたい資質・能力
- ★ 知識および技能
 - ★ 思考力・判断力・表現力等
 - ★ 学びに向かう力・人間性等

〈小学校学習指導要領より〉



幼児期の生活や遊びを通して育まれた資質・能力は、引き続き小学校教育においても高められていきます。特に5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる時期で「架け橋期」とよべれます。

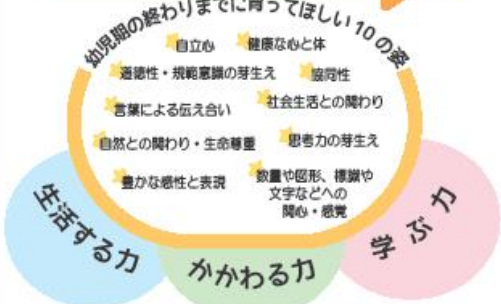


聖籠町の幼児教育 未来を創る子どもの育成



幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、小学校以降の教育の土台となるものです。聖籠町では園と小学校・家庭・地域で連携し、子どもたち一人一人の個性や発達、興味・関心を大切にしながら幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を育てています。この10の姿は、幼児期に育みたい資質・能力の具体的な姿であり、町では生活する力・かかわる力・学ぶ力の3つの観点からとらえて教育活動を行っています。

- 幼児期に育みたい資質・能力
- ★ 知識および技能の基礎
 - ★ 思考力・判断力・表現力等の基礎
 - ★ 学びに向かう力・人間性等



※裏面はリーフレットだけではなく、拡大版を町立・私立全園に掲示する

新 中面

聖籠町 幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力

幼児期の終わりまでに育てたい10の力は幼児教育を通して育てている。小学校入学以降も育ち続けていきます

幼児期（3歳時～5歳時）

小学校1年生

生活する力

★ 基本的な生活習慣を身につけ、自分のことは自分でやまっています

- 自立心
- 関心と好奇心
- 意欲性・積極的な生き方

幼児期（3歳時～5歳時）

準備・片づけ・着替えなど自分でやります

自分から進んであいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」を言います

生活の流れや集団のせまりを意図して行動します

園を最後まで過ごします

お手伝いを進んで例に立つ喜びを感じ、周囲をもって取り組めます

小学校1年生

自分のことは自分で行い、せまりを守って生活します

★ 手洗いや学習のせまりを守り、日課に合わせて行動します

★ 自分の役割を意図し、進んで集団活動を行います

かかわる力

★ 自分の思いや考えを伝え、互いの良さを認め合ったり、友達と協力したりします

- 言葉による伝え合い
- 協調性
- 社会生活との関わり

幼児期（3歳時～5歳時）

友達と協力しながら楽しく遊びます

言葉で思いや考えを伝え合います

自分たちの力で折り合いをつけながら、仲良く生活します

たくさんのお絵かきを通して思いや考えを伝えます

小学校1年生

思いや考えを伝え合い、みんなと力を合わせて活動します

★ 友達や先生と、思いや考えを伝え合います

★ 友達と協力して仲良く活動します

学ぶ力

★ 自分の興味・関心をもったことに取り組んだり、試したりする中で「わかった」「できた」という達成感を味わいます

- 興味・関心と探究心
- 思考力の習得
- 豊かな感性と表現
- 創造性・発想力

幼児期（3歳時～5歳時）

興味や関心をもったことに自分から取り組みます

くり返し試したり考えたりします

身近な自然にふれて、自然の楽しさや不思議さを感じます

わからないことは自分で調べてみます

小学校1年生

試したり考えたりして意図的に学習します

★ めあてをもって最後までやりとぎに取り組めます

★ 試したり考えたりしたことを友達と伝え合います

さまざまな体験や知識を学習に生かします

★ 文章を読んだり書き合ったり、計画的に学習します

★ むぎあかされたことを絵や文章で表現します

2.(4) 聖籠町架け橋期カリキュラムの作成

「幼保小架け橋プログラム」を推進するために、幼児教育センターで「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」を作成し、関係者協議会等で小学校・園と共通理解を図ってきた。


◎ 幼児教育センターで、令和2年度作成の「聖籠町接続期カリキュラム」等をもとに「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」を作成。

○ 各園・小学校で、「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」について検討してもらい修正した。

○ 3月の関係者協議会で、「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」の「期待する子ども像」「町の三本柱」について検討し決定する。

「聖籠町架け橋期カリキュラム」づくりに「聖籠町接続期カリキュラム」を活かす

令和2年度作成〈聖籠町接続期カリキュラム〉

聖籠町接続期カリキュラム		アプローチカリキュラム【5歳児後期】					円滑な接続 		スタートカリキュラム【小学校入学期】			
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
育みたい資質・能力		【知識及び技能の基礎】【思考力、判断力、表現力の基礎】【学びに向かう力、人間性等】						【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力】【学びに向かう力、人間性等】				
アプローチ期・スタート期のねらい		○友達や学級全体で同じ目的をもち、その中で一人一人が自分の力を発揮し自信をもって行動する。 ○頑張ったらできた喜びを味わい、様々なことに挑戦し、就学に期待をもちながら生活する。						○新しい環境に慣れ、学校や学級の中で安心して過ごす。 ○学校の生活リズムを身に付け、学習や活動に進んで取り組もうとする。				
接続の視点	健康	健康な心と体	楽しく健康な生活を送る			健康で安全な生活を心掛ける			生活リズムを整えて、健康な生活をしようとする。	・いろいろな運動や新しい体の動きに興味をもち、楽しんで挑戦しようとする。(体育) ・健康な生活習慣や安全な行動を心掛ける。		
		自立心	あきらめずにやろうとする			見通しをもって生活する			新しい生活や学習に進んで取り組もうとする。	・学校の生活や学習に関心をもって取り組み、自分でできることは自分でやろうとする。 ・思うようにいなくても、最後まで取り組もうとする。		
		人間関係	協同性	友達を受け入れる気持ちをもち、一緒に遊びを進めていく			共通の目的に向けて、友達と協力する			友達と助け合い、楽しく学校生活を過ごそうとする。	・新しい友達と、仲良く生活しようとする。 ・友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し協力して学習や活動に取り組もうとする。	
	道徳性・規範意識の芽生え	相手の気持ちを考えながら行動しようとする			してよいこと、悪いことの判断ができる			きまりの大切さが分かり、きまりを守って楽しく過ごそうとする。	・学校の約束やきまりを知り、よいことと悪いことを考えながら行動しようとする。(道徳) ・相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりしようとする。(道徳)			
	社会生活との関わり	身近な人との交流を楽しむ			進んであいさつや返事をする			新しい友達や先生、上級生など、様々な人と触れ合うことを楽しみにする。	・新しい環境に親しみ、進んで友達に関わろうとする。 ・気持ちの良いあいさつや返事をしたり、話を最後まで落ち着いて聞こうとしたりする。			
	環境	思考力の芽生え	遊びを積極的に楽しむ			友達と遊びを考えたり工夫したりする			いろいろなことに興味・関心をもって取り組もうとする。	・友達と活動を楽しんだり、工夫したりしようとする。 ・クラスの友達の考えに触れる中で、様々な考えがあることに気付く。(算数・国語)		
	言葉	自然との関わり・生命尊重	自然を遊びの中に生かす			自然や生き物を大切にすること			自然や生き物に興味をもって関わったり、大切にしたりしようとする。	・自然の事物や現象について関心をもち、進んで関わろうとする。(生活科) ・動植物に親しみをもち、世話等の体験活動を通して生命を大切にしようとする。(生活科)		
	表現	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	数量や図形、文字に興味関心をもつ			数量や文字を遊びの中に楽しく取り入れる			新しく始まる文字や数量の学習に興味・関心をもって取り組もうとする。	・鉛筆の持ち方に気を付け、丁寧に自分の名前を書こうとする。少しずつ言葉のまとまりを意識して、平仮名を読んだり書いたりしようとする。(国語) ・10までの数の意味や順番が分かるようになる。(算数)		
		言葉による伝え合い	自分の思いを言葉で伝える			言葉のやりとりをしながら遊びを進める			相手の話を聞き、言葉で自分の思いを伝えようとする。	・新しい友達や先生に、自分の思いを分かるように話したり、相手の話を聞いて理解したりしようとする。 ・分らないことや心配なことがあったら、先生や友達に聞こうとする。		
		豊かな感性と表現	感じたことやイメージしたことを自由に表現する			友達と表現することを楽しむ			感じたことやイメージしたことを楽しく表現しようとする。	・新しく経験したことや、身近な自然や動植物に触れて感じたことを、文や絵で表現しようとする。(国語・生活科) ・自分の思いやイメージをもち、描いたり作ったり、歌ったり踊ったりすることを楽しむ。(図工・音楽)		

令和5年度作成「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」

聖籠町 架け橋期カリキュラム(案)

	施設	幼稚園・認定こども園												小学校											
	対象	5歳児												1年生											
	時期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	育みたく望む・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	【知識及び技能の基礎】【思考力、判断力、表現力の基礎】【学びに向かう力、人間性等】												【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力】【学びに向かう力、人間性等】											
		1.健康な心と体 2.自立心 3.協同性 4.適性・規範意識の芽生え 5.社会生活との関わり 6.思考力の芽生え 7.自然との関わり・生命尊重 8.数量や図形、標識や文字などの関心 9.言葉による伝え合い 10.豊かな感性と表現																							
①期待する子ども像	○架け橋期を通して育てたい子ども像の明確化	友達と同じ目的をもち、一人一人が力を発揮し自信をもって主体的に行動する。																							
②町の三本柱	生活する力	基本的な生活習慣を身につけ、見通しをもって生活する。												小学校生活に慣れ、ままりを守って自信をもって生活する。											
	かかわる力	自分の思いや考えを伝え、友達と協力し合って遊びを楽しむ。												自分の気持ちを周りに伝えながら、友達と協力し合って活動する。											
	学ぶ力	興味をもったことに取り組み、試したり考えたりしながら、やり遂げる達成感を味わう。												学習の仕方を理解し、自分から考えたり調べたりしながら学ぶ。											
③園での活動・小学校での単元構成等	○期待する子ども像からくる3本柱の育成に向けた、各施設における活動や単元構成の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のとして受け止め、見通しをもって取り組む。(例・ハンカチの準備・ひな人形作り・発表会) ・最後まで話を聞く活動(例・絵本・制作・友達と相談する活動) ・試行錯誤しながら何度も試す活動(例・砂遊び・お店屋さん・色水) ・友達と協力しながら進める活動(例・当番活動・係りの仕事・発表会・修了式・運動会) ・諦めず、最後まで頑張る活動(プール活動・運動会・コマ回し・フープ・雲梯) 												<ul style="list-style-type: none"> ・園で楽しんできた活動を学校でも楽しむ(歌・リズム) ・新しい先生や友達との出合いを楽しむ ・しっかり話を聞いて取り組む ・学校を知り、ままりを守って生活する(学校探検) ・友達と協力し合って活動する(運動会・当番活動・発表会) ・試したり考えたりしながら自己を発揮し、主体的に学ぶ(タブレット調べ) 											
	○「アプローチャリキュラム」「スタートカリキュラム」や既存の指導計画等からみた保育者、教師のかかわり方	<ul style="list-style-type: none"> ○温かいまなざしと言葉かけ、意図的な見守りと必要な支援。 ○好きな遊びを見つけ、夢中になれる時間や場の確保と興味、関心がかもてる話し掛け。 ○一人一人を認める言葉かけ。 ○時期に応じた、友達同士のかかわりがうまれる場づくり。 ○自分たちで考え進めていく活動を通して、自己発揮し気持ちを切り換えるような活動。 ○幼児の主体的な遊びを大切にしつつ、どのような成長を願うかという保育者の意図を含めた環境構成する。 ○子どもの自分でしたいという思いを引き出すために、幼児と一緒に考え、振り返る場を設ける。 												<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育との連携を意識した授業を工夫する。 ○園で行った活動を取り入れるなど、子ども達が無理なく楽しむことができるようにする。 ○一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築けるような出合いを楽しむ活動を多く取り入れる。 ○学校の生活やルールに慣れるための活動の工夫をする。 ○子どもの気づきを促し、学びを自覚できるように支援し意欲をもたせる。 											
○教育的価値を有する環境の構成、環境づくり													<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が安心感をもち、生活や学習ができる環境づくり。 ○子どもの言葉から活動を立ち上げたり、教師の仕掛けで子どもの興味関心を引き出したりしながら、柔軟な発想で授業を構成する。 ○主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をする。 												
⑤子どもの交流	○子どもの交流場面													2月 ・5歳児の体験入学 (入学に期待をもつ)						2月 ・5歳児の体験入学 (年長児を温かく迎え、リードしながら楽しく活動)					
⑥関係者の交流	○園小教諭の交流場面	<ul style="list-style-type: none"> ・園小合同保育研究協議会(1学期)(幼児期に育ってほしい10の姿を明確にする) 1月・小学校教諭による5歳児保育参観(5歳児の学びや育ちの確認)(小学校へ連携の出来る支援の確認) 2月・園小合同情報交換会 3月・架け橋メッセージと要録による伝達(園から引き継ぎしてほしいことの伝達) 												4月・園教諭による新1年生授業参観(幼児期に育ってほしい10の姿から引き継ぐ姿の確認)											
	○家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを整え、基本的な生活習慣が身につくように連携して取り組む。(はあとふるの活用)(家庭の子どもの育ちチェック表の活用)保護者の安心感が持てるよう支援。 ・個人懇談(月・月) ・保育参観(月・月・月) ・就学前健康診断 												<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校生活に安心感が持てるよう支援する。 ・個人懇談(月・月) ・授業参観(月・月・月) ・就学前健康診断 											
⑧振り返り																									

今後の予定

令和6年度

- 「**聖籠町架け橋期カリキュラム(案)**」を、各園・小学校で実践しながら加除修正し、「**架け橋期カリキュラム自園・自校版**」を作成する。

令和7年度

- 各園と小学校の担当者が「**架け橋期カリキュラム自園・自校版**」を持ち寄って**検討会を開催し、共通する重要項目や円滑な接続について協議する。**
- 「**聖籠町架け橋期カリキュラム(案)**」を加除修正する。

※架け橋期カリキュラムのベースとなるスタートカリキュラム・アプローチカリキュラムは、継続して作成・活用する

3. 幼児教育資料の作成と活用 【成果と今後の方向】

成果

- 「幼児教育リーフレット改訂版」「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」の作成にあたっては、各園・小学校から理解と協力を得て完成した。
- 令和3年度作成「幼児教育リーフレット」は、令和4年4月に町内3～5歳児全家庭と全園教諭に配付し、拡大版を各園に掲示して育てたい力を全園と保護者で共有してきた。
今年度の改訂版も、令和6年4月に同じように配付・掲示する。

今後の方向

- 「聖籠町架け橋期カリキュラム(案)」の自園・自校化について定期的に進捗状況を確認しながら支援する。

4.町の幼児教育の積極的な発信

- (1) 広報せいろう・町ホームページへの掲載
- (2) 幼児教育センターの取組を外部へ発表

4.(1) 広報せいろう・ホームページへの掲載

「広報せいろう」への掲載

○ 9月号

「豊かな心をもち、いきいきと遊ぶ町立幼稚園」

「園・小合同5歳児研究保育協議会」

○ 10月号

「特色ある活動で豊かな心と体を育む町立幼稚園」

「町立せいろう幼稚園ホームページ」への掲載

○ ALTとの英語活動の様子をアドバイザーが毎週まとめ、掲載

「広報せいろう 9月号」

町立園・私立園・小学校合同 「せいろう幼稚園研究保育協議会」を開催

町立せいろう幼稚園では、教師の「指導力の向上」と「小学校への円滑な接続」に向けて、今年度も小学校教諭も交えた「町立園・私立園・小学校合同研究保育協議会」を開催しました。指導者には、新潟大学教職大学院の中島伸子教授をお招きしました。

せいろう幼稚園 5歳児研究保育協議会

5歳児が砂遊びで楽しくいきいきと活動する動画を視聴し、園教諭・小学校教諭で協議について話し合いました。



- 協議題**
- ①遊びの中で、どのような力が育とうとしているか。
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から」
 - ②こういう力を育むために、どういう援助や環境構成が大事か。
 - ③育ちつつある力は、小学校教育のどのような場面につながるか。



グループでの活発な意見交換



全体で発表し合い意見の共有



大学教授が保育も参観しご指導

話し合いより（一部抜粋）

園で育とうとしている力	教師の援助と環境構成	小学校でつながる場面
「思考力の芽生え」 ・自分で考え繰り返し試す。 ・やってみようという意欲。	・子どもの試しを言葉にする、共感する。 ・変化や展開できる環境。	・自分で考え調べる。 ・仮定し試す。 ・追究する意欲。
「言葉による伝え合い」 ・自分の思いを伝える力。 ・よく聞き、かかわる力。	・子どもの声を繰り返す。 ・よく聞き、表現させる。 ・考えを全体で共有する。	・発言する力、聞く力。 ・話し合い、発表。 ・伝える意欲。

園で育った力が、小学校のあらゆる場面につながっていることを共通理解し、日々の指導に活かしています。

※せいろう幼稚園の活動の様子は、ホームページでご覧いただけます。
 なお、せいろう幼稚園の特色ある活動「英語活動」「スポーツ教室」「リトミック」「食育」などについては、10月号の広報せいろうで紹介しています。

豊かな心もち、いきいきと遊ぶ子 町立せいろう幼稚園

せいろう幼稚園が開園し、2年目となります。自然に囲まれた環境の中、子どもたちの元気な声が響き渡り、楽しく生活をする様子が見られます。せいろう幼稚園では、「豊かな心もち、いきいきと遊ぶ子ども」の育成を目指し、子どもたちの自主性を大事にしながら、自ら環境にかかわり遊びを通して学ぶ力を育てるために、教師は各学年の発達をとらえながら指導に取り組んでいます。

日々の保育の充実を大切に

3歳児

幼稚園生活の基盤となる教師との信頼関係作りを大事にし、安心して生活できるよう支えながら保育をしています。



教師と一緒に好きな遊びを見つけてじっくり遊んでいます。



身の回りの始末など一緒にやりながら教師への信頼関係や自立心が育ちます。

4歳児

色々な友達と好きな遊びを繰り返し楽しめるよう、教師も一緒に遊びながら子どもの姿や声を聞き、環境を用意しています。



友達と場を作って好きな遊びを楽しんでいます。



自分で衣服などを丁寧に畳んで片づけます。

5歳児

教師は、遊びを見取り、子どもたちが目的や思いを共通にし、友達と協力して遊びを進められるよう支えています。



目的を持ち、友達と協力しながら遊びを進めています。



一人一人が意識をもって、教師の話をしっかり聞いています。

特色ある活動で豊かな心と体を育てる

せいらう幼稚園では、日々の保育の充実だけではなく、地域や保護者の方と連携しながら特色ある自信をもって活動できるように支えています。

町立せいらう幼稚園

活動を行っています。それらの活動を通して、子どもたち一人一人の豊かな心や体を育て、可能性を伸ばし

体験活動を通して豊かな心と体を育む

野菜や植物の栽培活動

自然に親しみ、お世話を
通して豊かな心と体を育む
栽培・収穫体験



◎子どもたちと育てたいものを話し合い、自分たちで世話をしながら成長や収穫の喜びを感じています。
また、蓮湖地区の方と5月にさつま芋の苗植え、10月には芋ほりと一緒にしています。

食育指導

町の管理栄養士による各学年2回の専門的指導と担任による日々の指導



◎食事のマナーや正しい姿勢、食器の持ち方を教えてもらいます。
また、食べ物や野菜の話や調理したり、実際に収穫した野菜を味わったりしながら食に対する興味や関心を高めています。

保護者とともに健やかな成長を促す

6月・11月・3月の年3回、「あいさついっぱい」「早寝、早起き、朝ごはん」を合言葉に、基本的な習慣が身に付くように園と家庭が一緒に取り組む活動

◎6月の取り組みでは、保護者の方にあいさつ運動を依頼していただいたおかげで、元気お声で「おはよう」のあいさつが出来るようになりました。

また、保護者アンケートでは、朝食摂取率が95%でした。これからも元気いっぱいの「SEIRO Kids」を目指します！

「あいさついっぱい・おなかもいっぱい・げんきいっぱい」

SEIRO Kids運動！



様々な経験を通して豊かな心と体を育み、意欲的に挑戦していく子どもの育成に向けて園と地域・保護者の方が協力して充実した教育活動を行っています。これからも、一つ一つを意味のある大切な経験として捉え、子どもたちの成長を見守り支えていきます。

お問い合わせ 教育未来課(内線305)

特色ある活動で一人一人の可能性を伸ばす

スポーツ教室

スポネットせいらうの指導者による、各学年の発達に合わせた継続的な指導



◎運動遊びを通して、幼児期に必要な体力・運動能力の基礎を培います。

「走る・転がる・跳ぶなどの基本動作」「プール活動」「跳び箱やボールを使った運動遊び」に進んで取り組んでいます。



毎週の英語活動

町内の3小学校とせいらう幼稚園を兼務するALT(外国語指導助手)による指導



◎小学校との接続を考えたプログラムをもとに、歌やゲームを通して英語に楽しく親しんでいます。子どもたちは、英語活動が大好きです。



リトミック(リズム遊び)

各学年の育ちに合わせ、体や心の発達を促すリズム遊びや表現活動



◎リズムに合わせて、子どもたちに親しみのあるいろいろな動物などを真似て、走ったり止まったり、跳んだり、這ったり、舞ったりしながら楽しく表現します。



4.(2) 幼児教育センターの取組を外部へ発表

○6月29日(木)

「**県幼児教育センター 市町村連絡協議会**」での発表
『**幼児教育の推進と園・小の円滑な接続**』

○8月5日(土)

「**新潟大学教職大学院 にいがた教育フォーラム**」での発表
『**園種を越えて学び合う研修のかたち**』

○9月26日(火)

「**宮崎県市町村幼児教育アドバイザー養成研修**」での講義
『**幼児教育アドバイザーの実際**』

4. 町の幼児教育の積極的な発信 【成果と今後の方向】

成果

- 令和3年度から継続して、広報せいろうで町の幼児教育の推進について掲載してきた。また「町立園・私立園・小学校合同研究保育協議会」での協議内容を掲載することで、幼児教育と小学校教育とのつながりを示すことができた。

今後の方向

- 今年度作成した「幼児教育リーフレット改訂版」について広報せいろうと町のホームページにも掲載し、架け橋期の教育について理解を広めていく。

5.幼児教育アドバイザーの質の向上

- (1) 連絡協議会・有識者会議等の開催
- (2) 研修会や意見交換会への参加

5.(1) 連絡協議会・有識者会議等の開催

幼児教育の充実・活用強化事業の推進にあたり、「連絡協議会」「有識者会議」「関係者協議会」を開催し、指導・助言を受けている。

会 議	目 的 と 構 成
連絡協議会 (年3回)	<ul style="list-style-type: none">■ 幼児教育アドバイザーの質の向上● 大学教授、県立教育センター指導主事、新潟市教委指導主事、町立幼稚園長、事務局で構成
有識者会議 (年1回)	<ul style="list-style-type: none">■ 幼児教育推進活用事業についての進捗状況及び成果と課題の共有、助言<ul style="list-style-type: none">・ 幼稚園教諭、保育士の指導力向上・ 町立の幼稚園・私立認定こども園と小学校との接続・ 幼児教育の積極的な発信● 大学関係者、県教委指導主事、近隣市教委指導主事、保護者代表、幼稚園園長代表、小学校長代表、事務局等で構成
関係者協議会 (年5回)	<ul style="list-style-type: none">■ 町立幼稚園・私立認定こども園と小学校との連携・接続<ul style="list-style-type: none">・ 園長と小学校長による園小の円滑な連携・接続について協議(2回) 架け橋プログラムの共通理解と接続期カリキュラムの実効性の評価・ 園同士の連携・接続に向けた園長会(3回)● 町立幼稚園長、私立認定こども園長、小学校長、事務局で構成

諸会議の構成(敬称略)

連絡協議会

- ① 新潟大学教育実践学研究科教授……………中島伸子
- ② 新潟県立教育センター指導主事……………中島美千子
- ③ 新潟市教育委員会指導主事……………清野佳子
- ④ 聖籠町立せいろう幼稚園長……………西村美紀
- ⑤ 聖籠町教育未来課参事・幼児教育センター長……………中島 崇 <事務局>
- ⑥ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー……………地主浩美 <事務局>
- ⑦ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー……………鈴木裕子 <事務局>

有識者会議

- ① 新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授……………脇野哲郎
- ② 県教育庁義務教育課指導第2係長……………相田 巧
- ③ 新発田市教育委員会教育センター指導主事……………松井隆夫
- ④ 新発田市立外ヶ輪小学校長……………小野沢謙一
- ⑤ 新潟市立有明台小学校長……………白澤陽子
- ⑥ 新潟市立牡丹山幼稚園長……………樋口泰子
- ⑦ 保護者代表……………高橋真弓
- ⑧ 聖籠町教育長……………近藤 朗
- ⑨ 聖籠町教育未来課参事・幼児教育センター長……………中島 崇 <事務局>
- ⑩ 聖籠町教育未来課係長・財務主任……………牧野 恵 <事務局>
- ⑪ 聖籠町子ども家庭相談センター主任……………南場優子 <事務局>
- ⑫ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー……………地主浩美 <事務局>
- ⑬ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー……………鈴木裕子 <事務局>

諸会議の構成(敬称略)

関係者協議会

- ① 聖籠町立せいろう幼稚園長……………西村美紀
- ② 社会福祉法人真心福社会 ハーモニーこども園長……………高橋智恵子
- ③ 社会福祉法人真心福社会 ほしぞらこども園長……………渡邊文江
- ④ 社会福祉法人真心福社会 なないろこども園長……………本間千賀子
- ⑤ 社会福祉法人親永会 聖籠はじめ保育園長……………三國 薫
- ⑥ 聖籠町立蓮野小学校長……………藤井政明
- ⑦ 聖籠町立山倉小学校長……………小林隆裕
- ⑧ 聖籠町立亀代小学校長……………伊藤健文
- ⑨ 聖籠町教育未来課参事・幼児教育センター長……………中島 崇 <事務局>
- ⑩ 聖籠町教育未来課係長・財務主任……………牧野 恵 <事務局>
- ⑪ 聖籠町教育未来課副参事・指導主事……………阿部 香 <事務局>
- ⑫ 聖籠町教育未来課特別支援・就学担当指導主事……………戸川しげ子<事務局>
- ⑬ 聖籠町子ども家庭相談センター主任……………南場優子 <事務局>
- ⑭ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー……………地主浩美 <事務局>
- ⑮ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー……………鈴木裕子 <事務局>

5.(2)研修会や意見交換会への参加

新潟大学附属幼稚園研究会「保育のとびら」

5月・12月参加

文科省 幼児教育推進体制の充実・活用事業意見交換会

幼児教育アドバイザー意見交換会 4月・8月・10月参加

新潟県幼児教育センター主催 オンライン研修

毎月2回程度参加

新潟県幼児教育センター市町村担当者連絡会議

6月・令和6年2月参加

「地区別保幼小合同研修会」

8月参加

新潟県私立保育園・認定こども園連盟主催学習会

「架け橋プログラム合同学習会」 令和6年2月参加

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上 【成果と今後の方向】

成果

- 連絡協議会では、的確かつ具体的なご指導をいただき、町での取組や外部への発表に活かすことができた。
- 研修会や意見交換会への参加を通して、参考になる指導や他市町村の実践を知ることができた。

今後の方向

- 研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。
- 有識者会議や連絡協議会でのご指導を活かすとともに、国や県・他市町村の動向を知り、広い視野で町の幼児教育を推進していく。

これからも

**聖籠町の園・小学校・幼児教育センターが
ともに連携して、「未来を創る子どもたち」を
大切に伸ばしていきます。**